

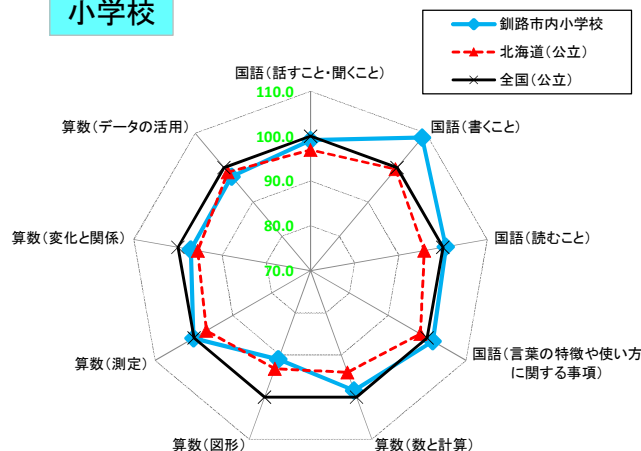
釧路市内の状況及び学力向上策（小学校数：26校、児童数：1073人）（中学校数：15校、生徒数：1084人）

【教科全体の状況】

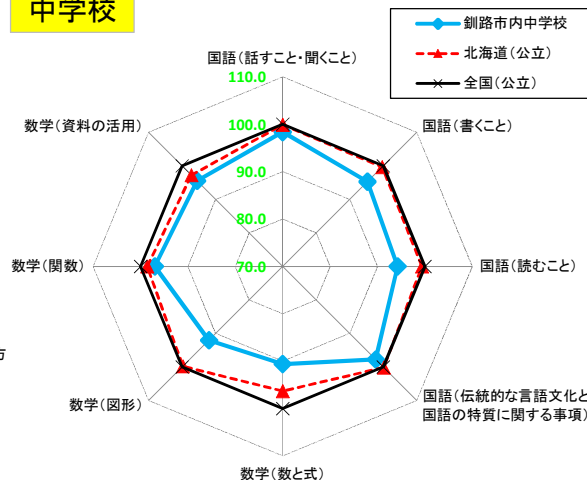
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	63
算数・数学	68	53

小学校

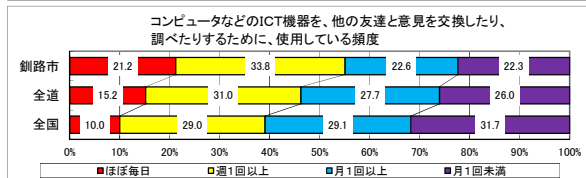
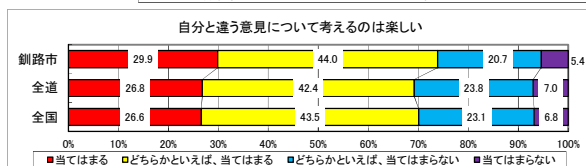
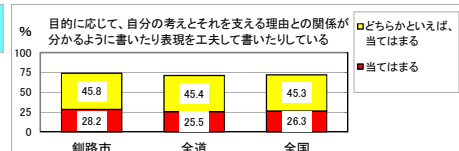


中学校

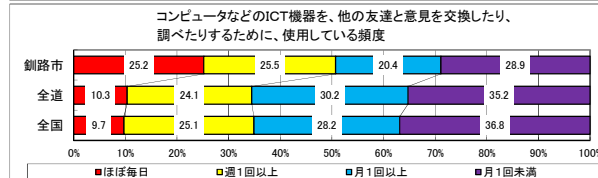
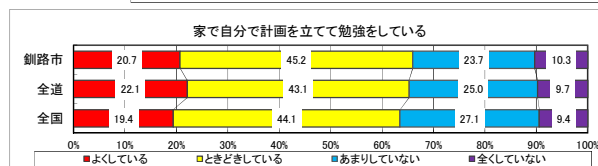
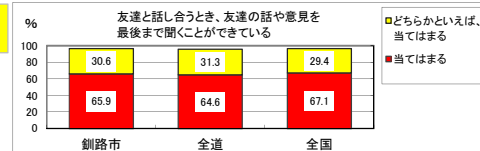


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、授業改善に関わる研修会等を継続的に実施してきたことにより、「書くこと」に関する学習活動の充実が図られ、国語の「書くこと」に関する設問で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

各校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、友達と話し合いながら課題を解決する機会が増えるとともに、「自分と違う意見について考えること」に多くの児童が楽しさを感じていることにつながったと考えられる。

昨年度、1人1台端末の活用に係る市主催の研修会を複数回実施し、今年度は実践事例等を定期的に周知したことにより、授業における端末活用の促進が図られたと考えられる。

中学校

各校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、よりよい集団解決につながる指導を積み重ねてきたことにより、「友達の話や意見を最後まで聞く」意識が高まったと考えられる。

各校において、望ましい生活習慣や学習習慣の定着に向けた取組を継続してきたことにより、計画的に家庭学習を行う習慣が定着してきたと考えられる。

昨年度、1人1台端末の活用に係る市主催の研修会を複数回実施し、今年度は実践事例等を定期的に周知したことにより、授業における端末活用の促進が図られたと考えられる。

【釧路市の学力向上策】

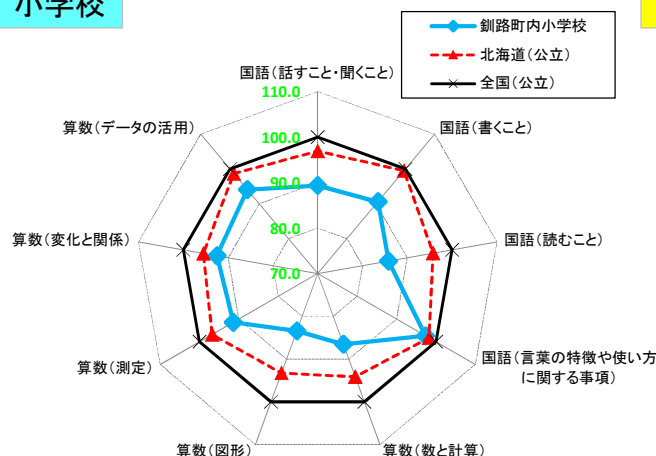
- ◎ 釧路市標準学力検査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立（調査結果を踏まえた学力向上プランに係る協議及び見直し）
- ◎ 教員の資質・能力の向上のための研修会等の実施（学力向上セミナー、ICT機器活用研修、釧路教育研究センター研修講座等）
- ◎ 授業力向上のための支援事業の実施（「授業マイスター」認定制度の導入、学力向上推進委員会の設置、初任段階教員を対象に優れた授業実践動画を提供、外国語教育アドバイザーによる巡回指導等）
- ◎ 市教委独自の一次訪問の実施（すべての教員の授業参観と指導）

■釧路町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:131人）（中学校数:4校、生徒数:134人）

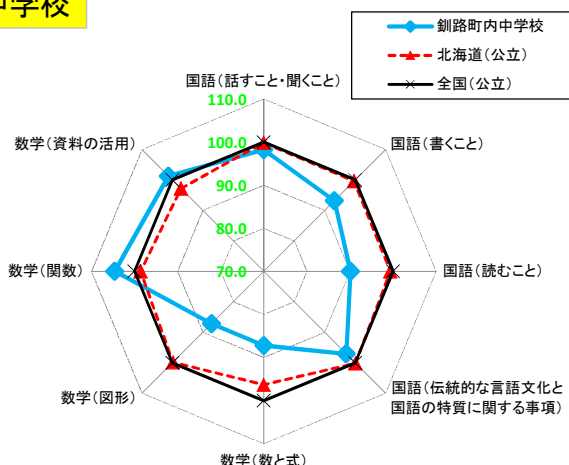
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

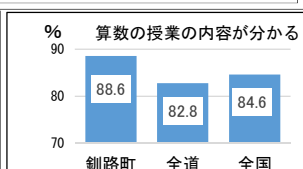
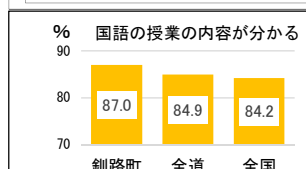
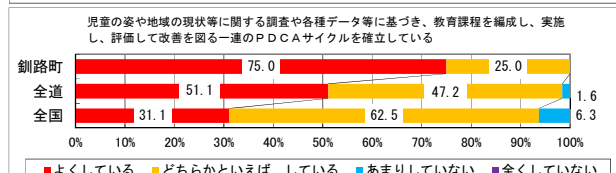
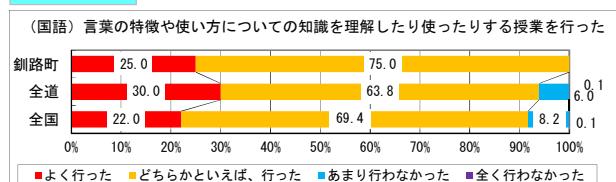


中学校

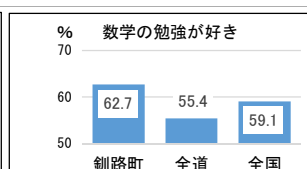
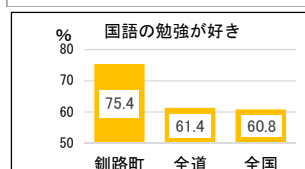
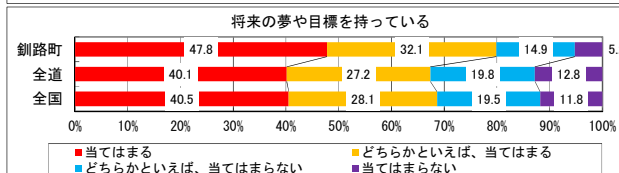
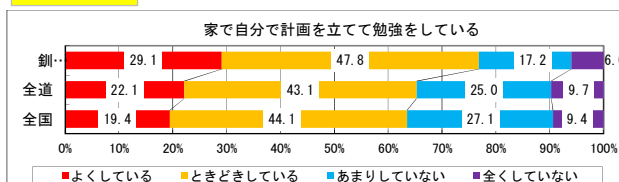


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、全道の平均正答率とほぼ同等になったと考えられる。

「釧路町学力・学習状況改善プラン」を基に、町内全ての学校で「学力・学習状況改善プラン」を作成し、PDCAサイクルを確立して授業改善を図ったことにより、国語、算数の授業内容が分かると回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。

中学校

町内全ての学校で学習の手引きを作成し、家庭学習について具体例を挙げながら指導したことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

町内6年生対象の「まちじゅう先生オープンキャンパス」や総合的な学習の時間において職業体験を通じた探究活動を位置付けたことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

町内全ての学校に導入したデジタル教科書を、授業において効果的に活用し、授業改善を図ったことにより、国語、数学の勉強が好きと回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【釧路町の学力向上策】

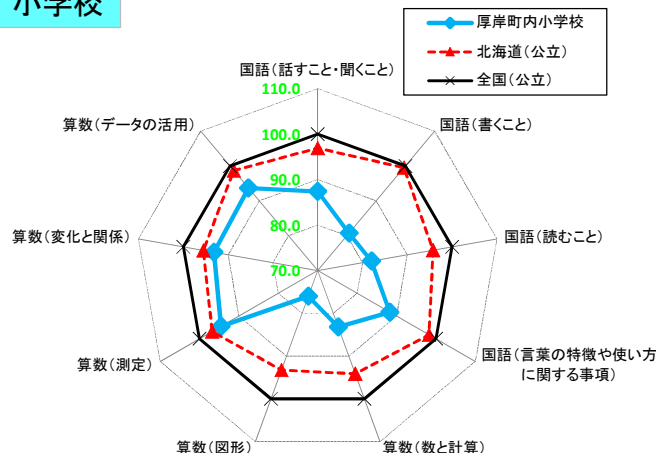
- ◎ 小中連携の強化に向けた合同研修会の場として、「地域連携部会」と「教務担当者交流会」の実施（年間各3回ずつ）
- ◎ 教職員の資質向上と1人1台端末の効果的な活用促進を図る町教委主催の研修会の実施（年間3回）
- ◎ 「学力・学習状況改善プラン」（年間3回）による検証改善サイクルと、「生活リズムチェックシート」（年間2回）による望ましい学習習慣の定着に向けた取組

■厚岸町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:50人）（中学校数:3校、生徒数:69人）

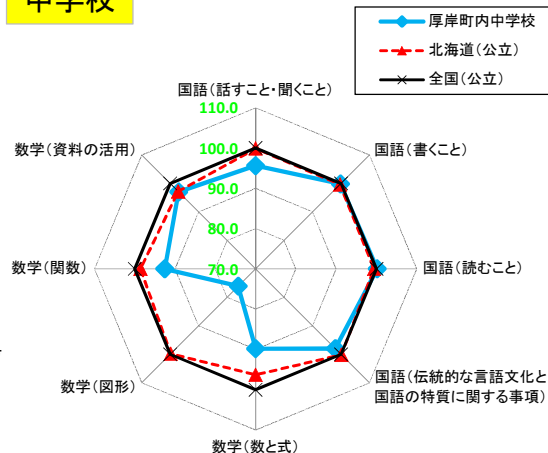
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

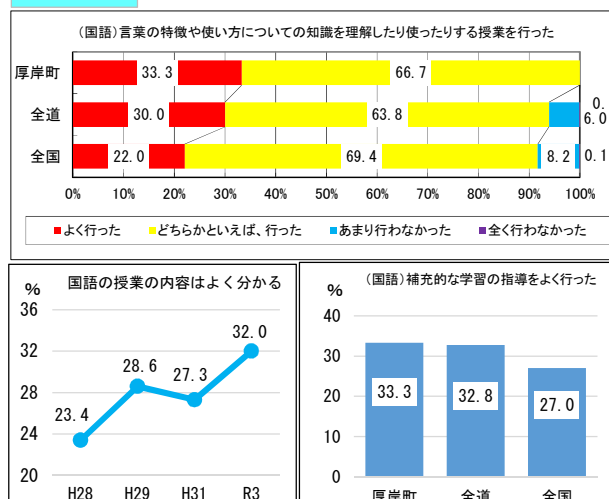


中学校

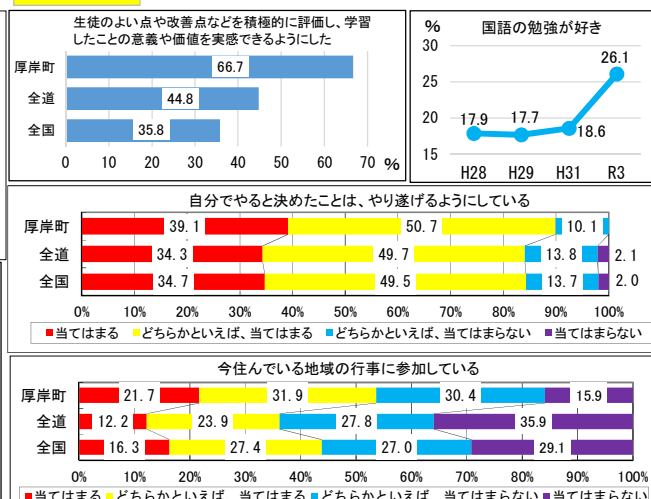


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、言語に係る基礎的・基本的な内容についての理解につながり、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

国語の授業において、補足的な学習の指導をよく行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が、増えていると考えられる。

中学校

各学校において、生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

国語科において、補足的な指導及び発展的な指導をよく行ったことにより、国語の勉強が好きと回答する生徒の割合が、増えていると考えられる。

学校運営協議会と学校が連携した取組を充実させたことにより、今住んでいる地域の行事に参加していると回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【厚岸町の学力向上策】

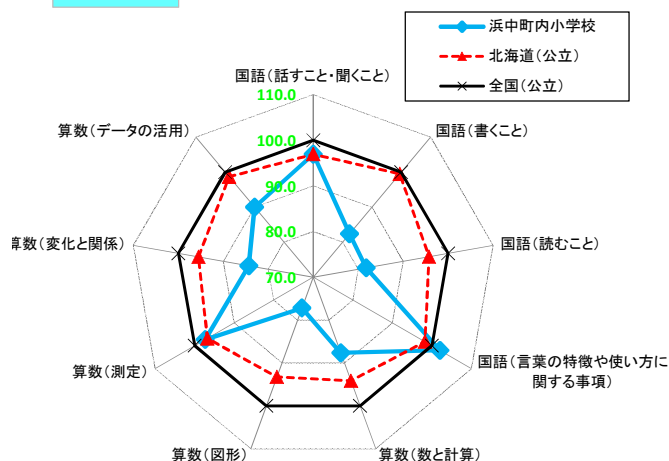
- ◎ 習熟度別少人数指導やチーム・ティーチング及びICTを活用した指導など個に応じた指導の推進
- ◎ 中学校区毎の保育所・小学校・中学校・高等学校職員の合同研修会や早期の中学校体験や乗り入れ授業の実施など、円滑な接続のために協働する取組の推進
- ◎ 家庭と連携した児童生徒の生活習慣の改善及び地域と協働した教育活動の実施
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善を図る研修会の実施

■浜中町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:38人）（中学校数:4校、生徒数:42人）

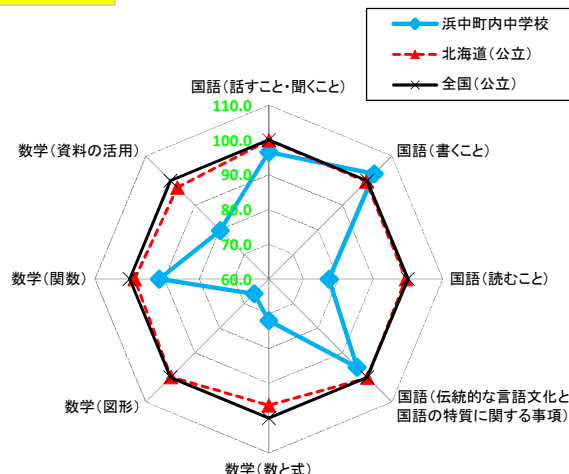
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

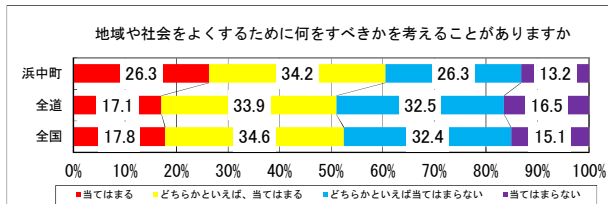
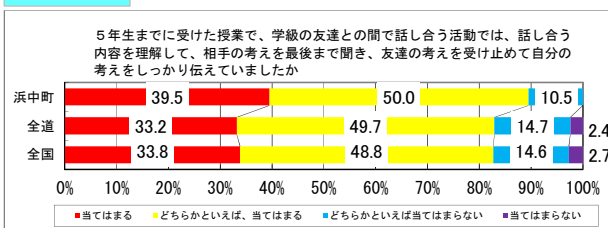


中学校

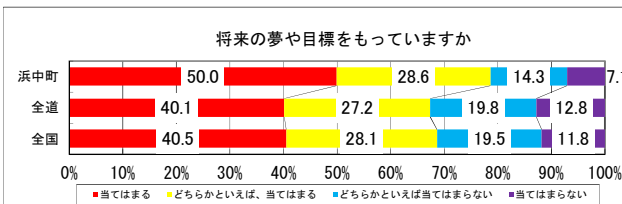
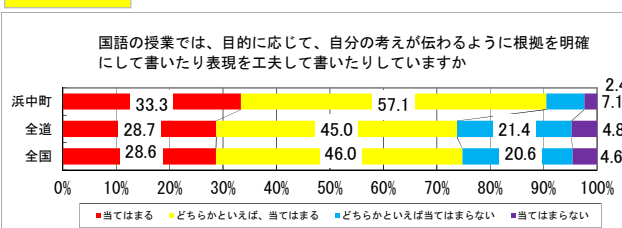


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えられるようにしたことにより、国語では、「話すこと・聞くこと」で、全道の平均正答率とほぼ同様になったと考えられる。

町全体で、「親子・高齢者とのふれあい活動」や地域の自然を生かした「自然体験学習」を教育課程に位置付けたことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしたことにより、国語では、「書くこと」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間等において、地域の特色を生かした海洋教育や地元企業と関わる学習活動を位置付けたことにより、生徒が、幼少期からの生活の基盤である地域や職業を強く意識し、将来の夢や目標をもっているとして回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

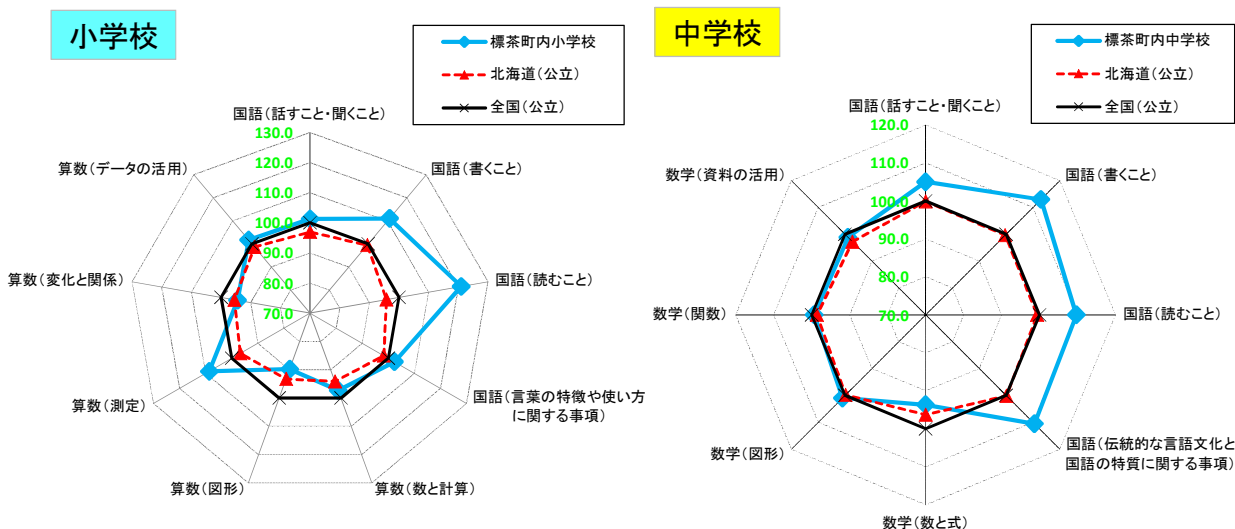
【浜中町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査及び町独自の学力調査を踏まえた「学力向上計画」の組織的な運用
- ◎ 浜中町小中連携事業の活性化による児童生徒の実態交流及び目指す子供像の共有
- ◎ ミドルリーダー研修会及びICT委員会の活用による1人1台端末の効果的な活用例の交流

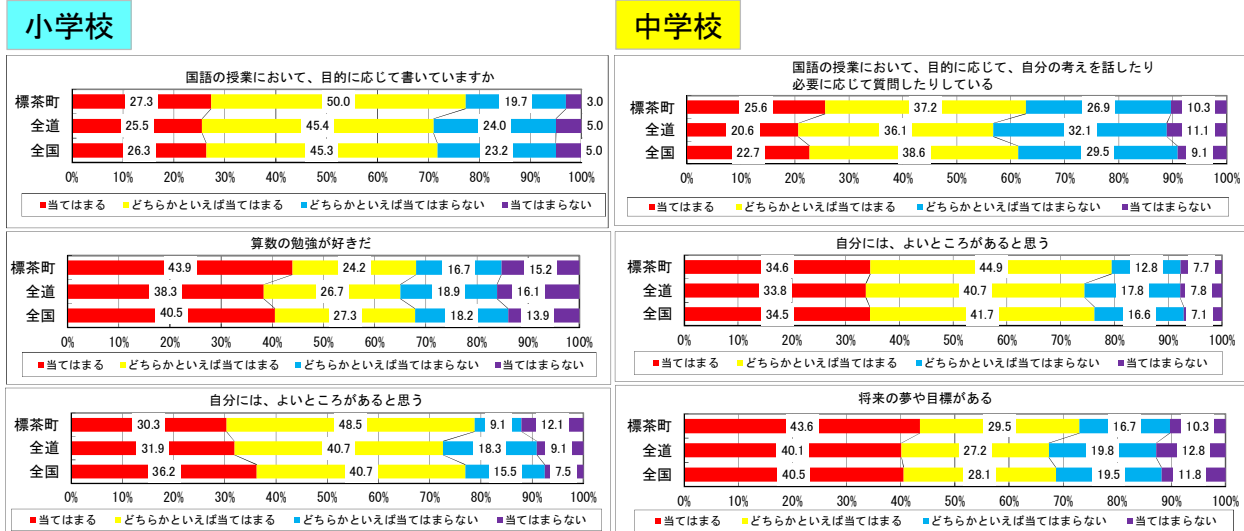
■ 標茶町内の状況及び学力向上策 （小学校数:6校、児童数:66人）（中学校数:4校、生徒数:78人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、自らの考えや伝えたいことを目的に応じて書いたり話したりする学習場面を意図的に設定したことにより、全ての領域・事項の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 算数の授業において、「見通し」や「振り返り」の場面を適切に設定し、児童の主体的な学びを促す授業改善に取り組んだことにより、算数の勉強が好きであると回答した児童の割合が全国を上回り、多くの領域の平均正答率が全道を上回ったと考えられる。 学習評価の在り方についての研修を深め、児童一人一人のよい点や可能性を見付け適切に評価する取組を継続することにより、自分にはよいところがあると思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	国語の授業において、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつ学習に取り組んだことにより、全ての領域・事項の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 生徒一人一人のよい点や可能性を見付け適切に評価する取組を継続するとともに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んだことにより、自分にはよいところがあると思うと回答した生徒や、将来の夢や目標をもっていると考えた生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

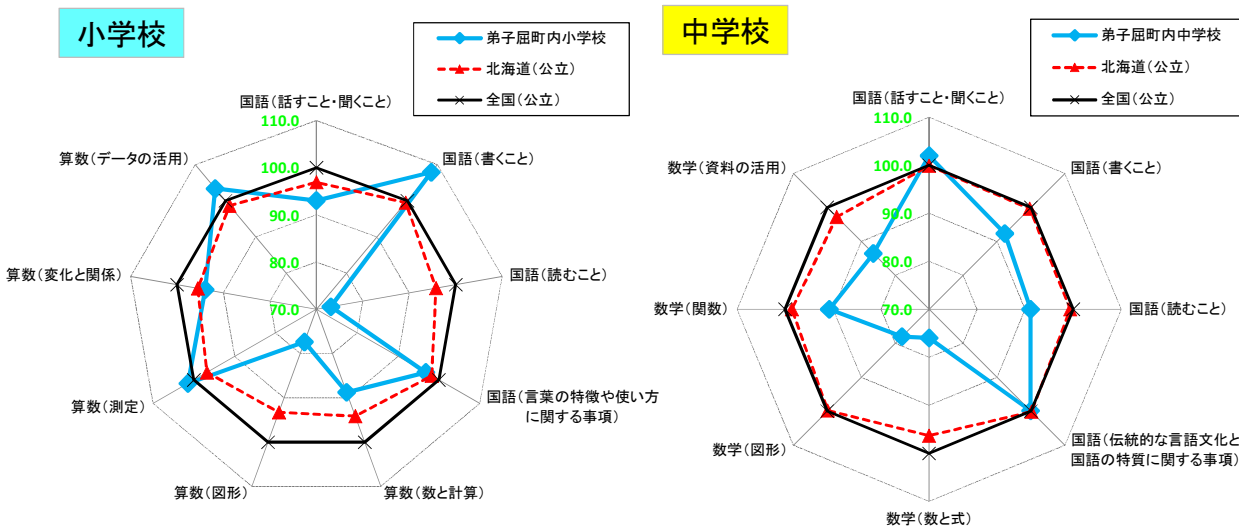
【標茶町の学力向上策】

- ◎ 標茶町学力向上プランに基づいた検証改善サイクルの確立
- ◎ 標茶町学力サポートプラン(CRT標準学力調査)の実施
- ◎ 小・中学校9年間を見通した家庭学習の手引の作成
- ◎ 1人1台端末を活用した授業づくりの充実に向けたICT特別委員会の実施(年5回)

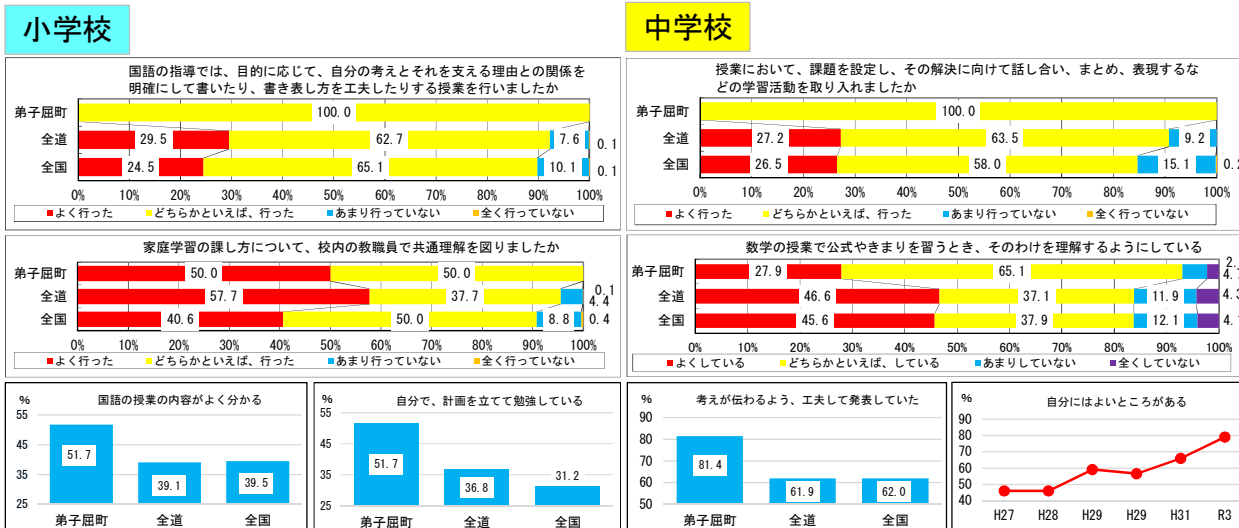
■ 弟子屈町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：29人）（中学校数：2校、生徒数：43人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校 国語の指導において、児童の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かったと回答した児童の割合と、国語の「書くこと」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。 家庭学習の手引を作成し、保護者に家庭学習の在り方について周知するとともに、全教員で家庭学習の課し方に係る共通理解を図り、児童に具体的な家庭での学習方法例を示したことにより、自分で、計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。	中学校 授業において、課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」における平均正答率と、考えが伝わるよう、工夫して発表していたと回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。 数学の授業改善に係る研修会を開催し、公式等が成り立つ根拠や問題の解決過程を重視する授業を実践したことにより、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。 生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価するなど、生徒の自己肯定感を高める取組を継続して行ってきたことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した生徒の割合が高くなってきたと考えられる。
--	---

【弟子屈町の学力向上策】

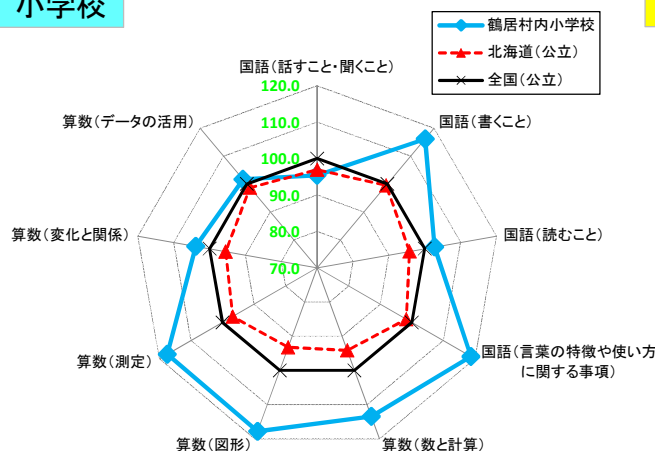
- ◎ 「わかる、できる」を味わう授業づくり～基本的な学習内容の理解と自分の意見や考えを表現する機会の充実
- ◎ 小中連携の推進～児童生徒の主体的な学びを実現する授業改善に向けた合同研修の実施
- ◎ 1人1台端末活用の取組～児童生徒の学習意欲を高める学習アプリの活用

■鶴居村内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:22人）（中学校数:2校、生徒数:25人）

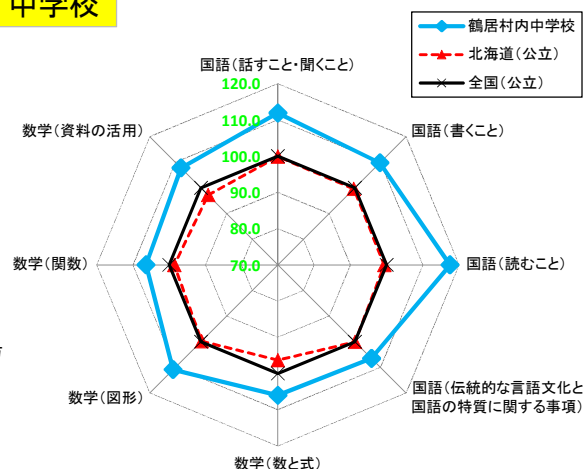
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

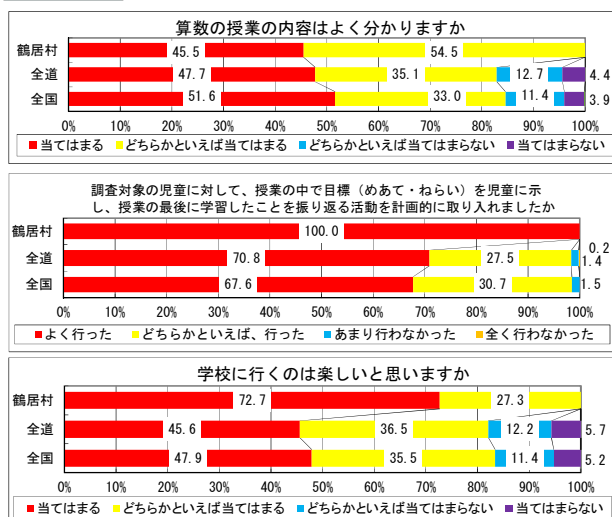


中学校

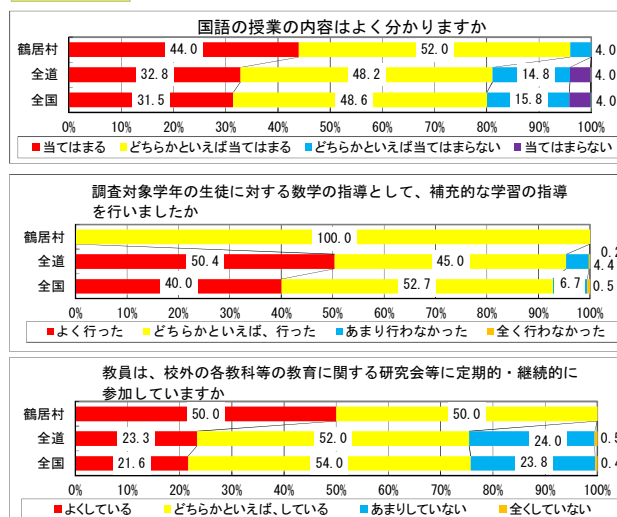


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れるなど、「授業スタイルの基本型」を校内で統一し、学習規律を徹底させたことにより、児童の学習内容の理解が深まり、ほぼ全ての領域・事項で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校が、児童にとって居心地がよく、学びやすい環境づくりに取り組んだことにより、学校に行くのは楽しいと回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。

中学校

各学校が、国語の授業において、「生徒にとって分かりやすい授業」を目指して取り組んだことにより、生徒の学習内容の理解に繋がり、全ての領域・事項で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校が、数学の授業において、補充的な学習の指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解に繋がり、全ての領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

教員が、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的に・継続的に参加し、授業の質の向上や授業改善等を推進したことにより、全ての領域・事項で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

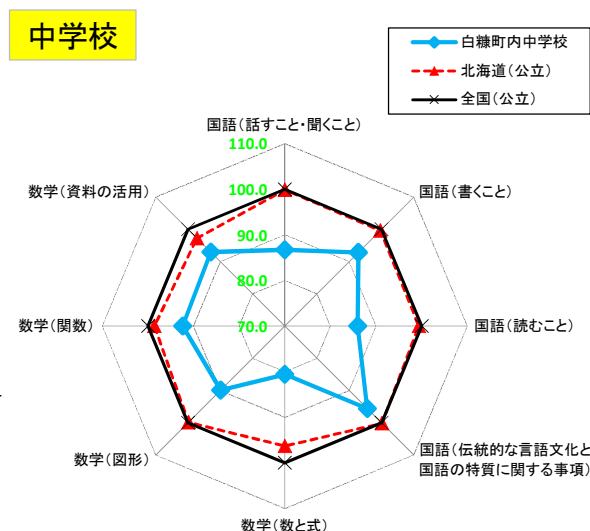
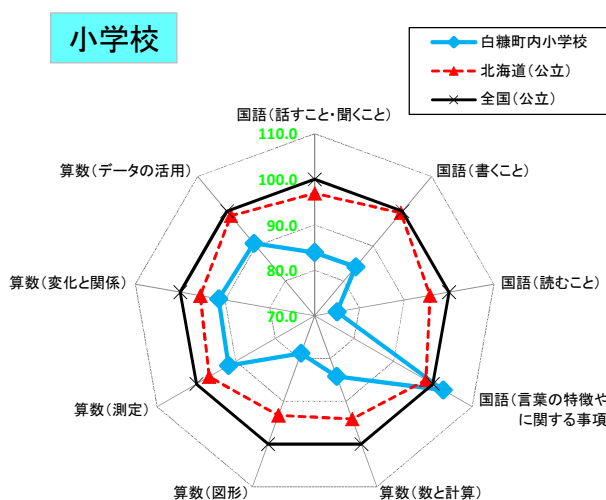
【鶴居村の学力向上策】

- ◎ 各学校の検証改善サイクルの改善及び教育委員会と学校間との連携を密にした体制による学力向上システムの確立
- ◎ 「授業スタイルの基本型」や「学習規律」の村内全校・全教科における共通理解・実践の促進
- ◎ 学校の実態や状況に合わせた家庭と連携した学習環境の充実
- ◎ 児童生徒の個々に応じた学習支援や1人1台端末の日常的な活用による授業改善の促進

■白糠町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:48人）（中学校数:2校、生徒数:39人）

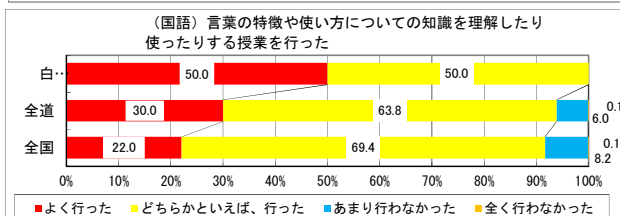
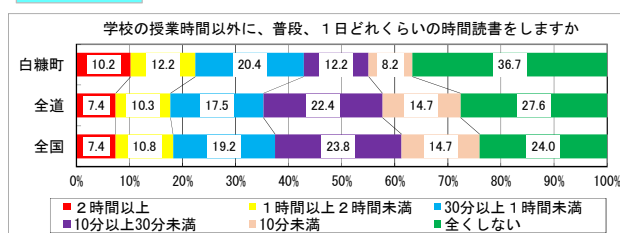
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

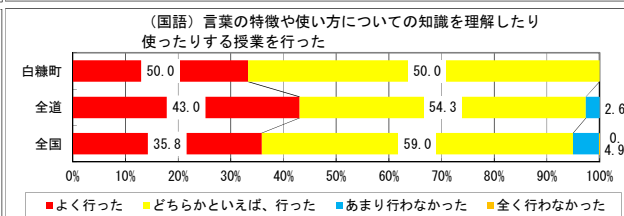
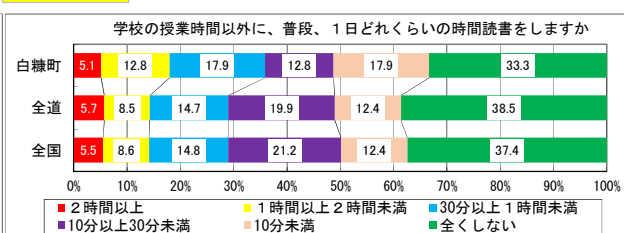


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする学習を行ったことにより、漢字や語彙などの深い理解につながり、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

児童が読書に親しみをもてるよう、朝読書を継続的に実施したり、町の「よみきかせの会」による読み聞かせ活動を実施したりすることにより、自ら進んで読書を行う習慣が身に付き、学校の授業時間以外に、普段、30分以上読書する児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、言語に係る基礎的・基本的な内容についての理解につながり、国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。

生徒が読書の意義や効果について理解できるよう、国語の授業を中心に指導したり、朝読書を継続的に実施したりすることにより、自ら進んで読書を行う習慣が身に付き、学校の授業時間以外に、普段、30分以上読書する生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【白糠町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育による義務教育9年間を見通した系統的かつ発展的な教育課程の推進
- ◎ ICTを活用した指導力の向上に向けた白糠町教育研究所による研究発表会や校内研修等の充実
- ◎ 関係機関と連携を図った放課後学習サポートの実施と拡充（小学校低学年～中学年）
- ◎ 標準学力調査の実施による実態把握と学力向上に向けた計画の作成